

ドイツ諸ラント史辞典
—中世から現在までのドイツ領邦と帝国直属家門— ④

鎌 野 多美子*

Historisches Lexikon der deutschen Länder
—Die deutschen Territorien vom Mittelalter bis zur Gegenwart—

Tamiko Kamano *

Bayern - Burghausen バイエルン - ブルクハウゼン (公領)

ザルツァッハ河畔のブルクハウゼンは1025年、寡婦財産として皇妃クニグンデに所属していた。1164年にそれはヴィッテルスバッハの諸伯、1255年にヴィッテルスバッハ諸伯のニーダーバイエルン系にわたった。1309年にそれは特許状、1322年にランツフートの法を得た。1331年にはニーダーバイエルンの分割により公領バイエルン - ブルクハウゼンが生まれたが、それは1334年に再び消滅した。1392年にブルクハウゼンはバイエルン - ランツフートにわたった。

Bayern - Deggendorf バイエルン - デッゲンドルフ (公領)

バーベンベルク家から諸権利を手に入れていたデッゲンドルフの諸伯は、ドナウ河畔のデッゲンドルフに因んで、12世紀にそう名乗った。1220年にデッゲンドルフの最後の伯がベーメンへ逃亡した後、1246年頃にバイエルン公オットー 2 世はデッゲンドルフを手に入れた。1331年にニーダーバイエルン分割によって公領バイエルン - デッゲンドルフは生まれたが、それは1333年再び消滅した。

Bayern - Ingolstadt バイエルン - インゴルシュタット (公領)

バイエルン - インゴルシュタット公領は、バイエルンの3回目の分割時に、公であるシュテファン 3 世によってドナウ川上流河畔とアルペンフォッラントにあったシュトロイベジッツをともなって創設された部分公領であった。それは1429年のプレスブルク仲裁裁定によりバイエルン - シュトラウビングの4分の1を手に入れた。1445年ないしは1447年にルートヴィヒ・デア・ビュリュックリングでもってバイエルン - インゴルシュタット系は死に絶えた。その家系の土地はバイエルン - ランツフートのハインリヒ16世公にわたった。参照 Bayern バイエルン。

Bayern - Landshut バイエルン - ランツフート (公領)

バイエルン - ランツフートは、バイエルンの第3回目分割時に1392年にフリードリヒ公

*かまの たみこ：大阪国際大学現代社会学部教授〈2010.12.9受理〉

によって創設された部分公領であった。それは1429年のプレスブルク仲裁裁定によりバイエルン-シュトラウビングの4分の1を手に入れた。バイエルン-インゴルシュタット系が死に絶えた後、その土地はバイエルン-ランツフートのハインリヒ16世にわたった。そのハインリヒ16世公はそれでもってバイエルンの3分の2を支配した。その後継者であるルートヴィヒ9世はインゴルシュタット大学を創設し、そして1450年にエルディングの契約でもってバイエルン-インゴルシュタットの小さな部分を従兄弟のバイエルン-ミュンヒェンに譲渡した。同時にバイエルン-ランツフートは領地ハイデンハイム、領地ハイデック、領地ヴェムディングと領地ヴァイセンホルンを手に入れた。1503年12月1日にバイエルン-ランツフート系は1392年の分割契約と1450年のエルディングの契約にもかかわらず、娘エリーザベスを女子相続人に任命したゲオルク・デア・ライヒェでもって男系が絶えた。エリーザベスと結婚したプファルツのループレヒトとバイエルン-ミュンヒェンのアルプレヒト4世公のあいだで相続紛争が生じた。参照 Bayern バイエルン、Niederbayern ニーダーバイエルン。

Bayern - München バイエルン-ミュンヒェン (公領)

バイエルン-ミュンヒェンは1392年のバイエルンの3回目の分割時にヨハン2世公によってオーバーバイエルンの南西部とノルトガウの南部をともなって創設された部分公領であった。それは1429年のプレスブルク仲裁裁定により、バイエルン-シュトラウビングの半分を手に入れた。1450年のエルディングの契約で、それはバイエルン-ランツフートからバイエルン-インゴルシュタットの小さな部分を手に入れた。1485年にアルプレヒト4世公は伯領アーベンスベルクを没収した。1487年から1492年まで債務超過に陥った帝国都市レーゲンスブルクをその支配下に置いた。1503年ないし1505年のランツフートの相続争いの中で、アルプレヒト4世は、地域譲渡の承諾と交換に、マクシミリアン王の支援を手に入れた。1505年6月30日のケルンの仲裁において、バイエルン-ランツフートはバイエルン-ミュンヒェンに約束したので、その結果、バイエルン (バイエルン-ミュンヒェンにおいて) は再び統一された。参照 Bayern バイエルン、Oberbayern オーバーバイエルン。

Bayern - Straubing バイエルン-シュトラウビング (公領)

1349年、1351年、1353年に皇帝ルートヴィヒ4世 (バイエルン公) の息子たちの下での相続財産分割により、公領バイエルン-シュトラウビングが生まれた。そこにはネーデルラントにある諸土地が所属していた (シュトラウブング-ホラント)。1425年にその系は男系が絶えた。かれらの土地を、皇帝ルートヴィヒはハーブスブルクに与えた。1429年にかれらはその半分をバイエルン-ミュンヒェンに、そしてバイエルン-ランツフートとバイエルン-インゴルシュタットにそれぞれ4分の1を返還せねばならなかった。ネーデルラントにある土地は1433年にブルグント公にわたった。参照 バイエルン Bayern。

Bayersdorf バイエルスドルフ Bayersdorf バイアースドルフ (帝国騎士)

16世紀初期にバイエルスドルフ家はフランケン騎士クライスのゲビルク・カントンに属していた。

Bayreuth バイロイト Brandenburg-Bayreuth ブランデンブルク-バイロイト (侯領、辺境伯領)

バイロイトは1194年に初めて文書で言及されている (バイエルルーテ)。バイロイトは、マイン上流河畔のシュヴァインフルトの辺境諸伯が死に絶えた後、1057年に支配権を手に入れたアンデックス (-ディーセン) の諸伯と諸公が創設したものである。1248年、それは遺産としてアンデックスの諸伯からホーエンツォレルンの一門出自のニュルンベルク城伯に継がれた。1398年にホーエンツォレルン家内で財産分与された際、それは盟主都市クルムバッハ (クラッセンブルク) とともに「オプ・デム・ゲビルク」地域に所属していた。1486年から1495年までそれは独立していたが、1515年までに再びアンスバッハに戻ってきた。しかし1557年に再び「オプ・デム・ゲビルク」地域に戻った。1521年以降、宗教改革が導入された。1542年にクルムバッハの官房はバイロイトへ移された。1603年にバイロイトと同様にアンスバッハにおいても、フランケンのホーエンツォレルン家の兄系が死に絶えた時、マルク・ブランデンブルクのホーエンツォレルン家のひとりが相続契約に基づいて相続した。1557年にフランケン (アンスバッハ家) 系の本家にいきついていたバイロイトは、その本家が死に絶えた後、1603年ないし1662年に、マルク・ブランデンブルクのホーエンツォレルン家のクリスティアンの下で、クルムバッハに代わって、それにふさわしい侯の居城になった。かれら諸侯はホーエンツォレルン家がブランデンブルク辺境伯領を獲得したので、辺境伯称号を手に入れた。1743年にエアランゲン大学が創設された。バイロイト辺境伯領はバイロイト系が死に絶えた後、1769年以降に同君連合によりアンスバッハ辺境伯領とともに統治され、1791年に面積72平方マイルで住民18万6,000から25万人とともにプロイセンに売却された。バイロイトはオーバーラントとウンターラントに分けられた。オーバーラントは長官領バイロイト、長官領クルムバッハ、長官領ヴンディーゼル、シャウエンシュタイン、ヘルムブレヒツ、リヒテンベルク、ティールバッハ、ラウエンシュタイン、ミュンヒベルク、シュトックローツ、ゲフレス、ベルンエック、ゴルトクローナツハ、シュタイン、クロイセン、ペグニツ、シュナーベルヴァイト、オスターノーエ、ノイシュタット・アム・クルム等の上級役所管轄区域、地方長官領ホーフを包括していた。ウンターラントはエアランゲン長官領、アイシュ河畔のノイシュタット地方長官領、バイエルスドルフ上級役所管轄区域、ホーエンエック上級役所管轄区域、イプスハイム上級役所管轄区域、ノイホーフ上級役所管轄区域を包括していた。1800年頃、バイロイトはフランケン騎士クライスのアルトミュール・カントン、シュタイガーヴァルト・カントン、そしてゲビルク・カントンの構成員であった。1806年、その辺境伯領はフランスに占領された。1807年にティルジットの講和条約 (フランス・プロイセンの講和条約) でバイロイトはフランス、1810年にバイエルンにわたった。

Beauffremont ボーフルモン (帝国侯)

1757年に、ルイ・デ・ボーフルモンとルイの兄弟、そしてかれらの子孫は、ゴレヴォト家の相続人として帝国諸侯に上昇した。

Beauveau - Craon (帝国騎士、帝国侯)

1721年あるいは1722年から、1728年あるいは1743年まで、ロートリングンの Marquis von Beauveau-Craon は、1720年頃にクローゼン家によって獲得された騎士領、つまりネッカー河畔のミュールハウゼンとともに、シュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンに属していた。その騎士領は1728年にパルムの侯爵によって購入された。

Bebenburg ? ベーベンブルク ? (帝国騎士)

フランケン騎士クライスのレーン-ヴェラ・カントン。

Bebendorf ベーベンドルフ (帝国騎士)

16世紀初頭にベーベンドルフ家はフランケン騎士クライスのシュタイガーヴァルト・カントンに所属していた。

Bebenhausen ベーベンハウゼン (村)

18世紀末に、テュービンゲン北部に位置するベーベンハウゼンのナイペルクの諸伯の土地はシュヴァーベン騎士クライスに属していた。参照 Baden-Württemberg バーデン-ヴュルテンブルク。

Bebenhausen ベーベンハウゼン (帝国修道院)

1187年直前に、テュービンゲンのプファルツ伯ルードルフはシュパイアー高司教区本部から買い戻されたベーベンハウゼンの土地、テュービンゲン北部に、1190年にシトー会修道士たちが所有するプレモントレ会修道院を創設した。1280年から都市テュービンゲン売却の1342年まで、そのプファルツ伯たちは修道院寄付行為書に反して、この修道院をかれらの支配下に置こうと試みた。14世紀、その代官直轄地は帝国にわたった。15世紀後半にヴュルテンベルクはテュービンゲンのプファルツ諸伯の後継者として次第に帝国修道院に対する支配権を手に入れていった。1498年以降、その大修道院長はヴュルテンベルクの領邦議会ラントに出席した。1535年に宗教改革が導入された。1623年にはまだ14の村および集落、8つの農場、城、城の厩舎、876人の臣下がその修道院に所属していた。1807年に修道院の自治権は消滅した。参照 Baden-Württemberg バーデン-ヴュルテンベルク。

Beberlohe ベーバーローエ (帝国騎士)

ベーバーローエ家はフランケン騎士クライスのアルトミュール・カントンに属していたと思われる。参照 Diethenhofen ディーテンホーフエン。

Bechtolsheim ベヒトルスハイム (共同相続領)

1270年11月13日にフィリップ・フォン・ホーエンフェルスはボランデンの相続人として偽装売却という方法で、騎士、貴族、農地所有農民、同じく地方自治体ベヒトルスハイムをすべて、村落全土と全権利とともに、レーンとして与えた。この騎士の共同相続領は、自由村落として村落統治権^{オルトスホーハイム}を獲得した。マウヒェンハイム・ゲナント・ベヒトルスハイム家は、ベッカーズ・ツー・ヴェスターシュテッテン家同様に共同相続人の中にいた。ヘッセン-ダルムシュタットを経由して、ベヒトルスハイムは1946年にラインラント-プファルツ州になった。参照 Mauchenheim genannt B. マウヒェンハイム・ゲナント・ベヒトルスハイム。

Beck ベック (帝国騎士)

1650年から1750年頃まで、フォン・デム・ベック家はフランケン騎士クライスのパウナッハ・カントンに属していた。

Beckelnheim ベッケルンハイム (共同相続人)

1270年から1400年直前まで共同相続領ベヒトルスハイムに関与していた、ガウビッケルハイム出身の貴族一門が13世紀から16世紀までに出現している。参照 Rheinland-Pfalz ラインラント-プファルツ。

Beckers zu Westerstetten ベッカーズ・ツー・ヴェスターシュテッテン (男爵、帝国騎士)

18世紀に、十分の一税の権利を持っていた男爵ベッカーズ・ツー・ヴェスターシュテッテンは、1700年頃に獲得した共同相続領ベヒトルスハイムとともにライン騎士クライスのオーバーラインシュトローム・カントンに属していた。同様にハインリヒ・アントン・フォン・ベッカーズ・ツー・ヴェスターシュテッテンは、1743年から1776年までシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンに属していた。1742年にその一族は帝国伯に上昇した。

Bedburg ベドブルク (領地)

エルフト河畔のベドブルクは893年に初めてプリューム (ベトブルーレ) 修道院の土地、後にケルン大司教区の土地の中に出現している。レーン保持者はザインの諸伯と、そこからミレンドク^{ミレンドク}の諸君主、1282年にライフエルシャイトの諸君主へと移行した。1403年にベドブルクは結婚によりリンブルク^{リンブルク}の諸伯に、1425年にノイエンアールの諸伯にわたった。1584年以降それは、それを一領地にまで拡大したライフエルシャイトの君主とノイエンアールの諸伯の遺産相続人との間で争われたが、1600年から1791年まで続いた訴訟は判決が出なかった。1792年、それはザルム-ライフエルシャイトの諸伯の手からフランスの支配下になった。1776年の帝国登録簿によれば、それはノイエンアールの諸伯を経由してクーアライン帝国クライスに算入されたと思われる。1815年それはプロイセン、1946年に

ノルトライン-ヴェストファーレン州にわたった。

Beeskow ベースコウ (領地)

シュプレー川の中州にスラヴ人の城塞に関連して、13世紀前半にベースコウは生まれたと思われる。それはシュトレラのミニステリアーレンの領地ベースコウ-シュトルコウの中心となった。それは1382年にビーバーシュタインの君主たちにわたった。1490年に領地ベースコウはザクセンの諸公に、1518年に高司教区本部レープスに担保として与えられた。1556年にそれはキュストリン辺境伯ヨハン、1575年にブランデンブルクにわたった。それはオーバーザクセン帝国クライスに所属し、1742年にベーメンのレーン主権下にあった。参照 Brandenburg ブランデンブルク。

Behaim ベハイム Behem ベーヘム (帝国騎士)

18世紀にベハイム家はフランケン騎士クライスのレーン-ヴェラ・カントンに属していた。参照 Estenfeld genannt B. エステンフェルト・ゲナント・ベハイム、Mörlau genannt Böhm メールラウ・ゲナント・ベーム。

Behaim von Schwarzbach ベハイム・フォン・シュヴァルツバッハ (帝国騎士)

1806年頃にベハイム・フォン・シュヴァルツバッハ家はフランケン騎士クライスのゲビルク・カントンに属していた。

Behr ベール (帝国騎士)

18世紀末にベール家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。

Behr von Behrental ベール・フォン・ベーレントール (帝国騎士)

16世紀ベール・フォン・ベーレントール・ツー・エーニンゲン (エーリングゲン) 家は、シュヴァーベン騎士クライスのネッカー・カントンに属していた。

Beichlingen バイヒリンゲン (諸伯)

1014年に初めてケレダ近郊の城塞バイヒリンゲンは言及されている。その城塞の名に因んで、ある伯一門は自らをそう名乗った。その一門は13世紀初頭以降 (封建制度下で地代・年貢などの封建義務を負わない) 多くの系に分割された、完全自由地、帝国封土、方伯封土からなる、フィンネ、ケルブラ、フランケンハウゼンの間にある、見栄えのする土地を集めた (ケレダ、ケルブラ、フランケンハウゼン、ヴォルピス、ブリュッケン、オルディスレーベンの代官管轄地) が、これらを14世紀にシュヴァルツブルクの諸伯とヴェティン家に担保入れし、売却した。参照 Thüringen テューリンゲン。

Beier von Boppard バイアー・フォン・ポッパルト (帝国騎士)

1234年から1236年にコンラート・バイエルは帝国都市ポッパルトの帝国シュルトハイス(市長)であった。1331年にトリーア大司教は、何度もメッツ司教の座を占めていたバイアー家を、ポッパルト近郊にあったいわゆる王宮の世襲城伯に任命した。1464年、その分家は女子相続人を通して、その持ち分として共同相続領ゾンデルスハイムを得た。かれらはそれを1507年に家系が絶えるまで維持していた。18世紀にはバイアー家はライン騎士クライスに属した。

Beilstein バイルシュタイン (領地)

モーゼル河畔のツェル近郊のバイルシュタインは、1129年に初めて言及されている。その城塞は1689年に壊滅された。バイルシュタインは帝国のレーン、ケルン大司教区本部、トリーア大高司教区本部、そしてユーリヒ諸侯のレーンから形成された帝国領地の中核であった。その帝国領地は、1068年以降証明可能なブラウンスホルン諸君主の領地だった。その一族の男系が絶えた後、その領地は1362年に女子相続によりヴィンネブルクの諸君主、1637年にトリーア大司教区本部に、そしてトリーア大司教区本部から1652年に帝国陪審封土としてメッテルニヒの男爵たちにわたった。ヴィンネブルクとともに、バイルシュタインは、1679年その一族がヴェストファーレン地方の諸伯合議体^{オルデ}に加入する理由となる存在だった。ヴィンネブルクとバイルシュタインに最終的に17村落が所属していた。18世紀末、バイルシュタインはフランスにわたった。その代償にメッテルニヒ諸侯はオクセンハウゼンをもらったが、1815年にバイルシュタインはプロイセン、1946年にノルトライン-ヴェストファーレン州にわたった。

Beilstein (領地)

11世紀にヴェステルヴァルトの城塞バイルシュタインは帝国管理下に入り、12世紀中頃にはテューリンゲンの方伯たちに、そしてこの者たちから、ヴォルムス高司教区本部から権利を授与されていたバイルシュタイン諸君主を1226年以後に追い出したナッサウ諸伯に授与された。1341年以降、ナッサウ一門の系は、バイルシュタインに因んで自らをそう名乗った。1561年にバイルシュタインはナッサウ-ディレンブルクにわたった。1607年にそれは新たに、1620年にナッサウ-ディレンブルクを相続し、自分たちが死に絶える1739年にはナッサウ-ディーツ(-オラーニエン)に相続されることになるナッサウ-バイルシュタイン傍系の居城となった。その領地は、同名の都市をもつ役所管轄地区バイルシュタインとマリーエンベルクから構成されており、約5平方マイルを包括していた。それはナッサウ(-ディーツ)-オラーニエンを経由してクーアライン帝国クライスに所属していた。参照 Nassau-Beilstein ナッサウ-バイルシュタイン。

Beinheim バインハイム (領地)

ウンターエルザス地方の領地バインハイムはバーデン分割の1535年にバーデン-バーデンにきた。18世紀末それはフランスにわたった。参照 Baden バーデン。

Belcsem ベルクゼム (ベルスハイム、シュテンダール周辺、マグデブルクの北)

Belgien ベルギー

参照 Brabant ブラバント、Burgund ブルグント、Eupen(Eupen-Malmedy) オイペン (オイペン-マルメディー)、Flandern フランドル、Habsburg ハープスブルク、Hennegau ヘネガウ、Lüttich リュティヒ、Luxemburg ルクセンブルク、Malmedy マルメディー、Niederland ネーデルラント、Stablo(und Malmedy) シュタプロ (ウント・マルメディー)

Bellelay ベレライ (修道院)

1136年にモウティール-グランドファルから創設された修道院ベレライはビールの北西に位置し、1797年にフランスによって廃止された。

Bellenz ベレンツ

参照 Bellinzona ベリンツォーナ

Bellersheim ベラースハイム (帝国騎士)

18世紀にバラースハイム家はライン騎士クライスに属していた。

Bellheim ベルハイム (帝国農場^{ホーフ})

ゲルメルスハイム近郊のベルハイムは776年にロルシュ文書に言及されている。それは帝国に所属し、13世紀中頃にはレーンとして騎士フーゴ、別名ハーフェネルと呼ばれていた騎士の手中にあった。それは、1303年1月11日のヘルト修道院についてのアルブレヒト王の文書中に「ヴィラ・ノストラ」として記述されている。のちにそれは担保としてバーデンの辺境伯にわたり、そこから1363年にラインのプファルツ諸伯 (プファルツ) にわたったと思われる。参照 Bayern バイエルン、Rheinland-Pfalz ラインラント-プファルツ。

Bellinzona ベリンツォーナ 中世は Bellenz ベレンツ (領地)

テッシン河畔のベリンツォーナは4世紀のローマ時代の帝国城塞まで遡ることができる。それは東ゴート族、ランゴバルト族、フランク族、イタリアの諸王を経由して、コモの諸司教にわたった。1192年にベリンツォーナは、シュタウフェン家から、自治都市コモの支配下におかれた。1350年、それはミラノの手にわたった。それは1419年にウーリに売却されたが、1422年にミラノの諸公に征服された。それは無血占領 (1501年) 後の1503年にそこにラント代官職をおき、1798年ないし1803年にテッシンに独立を許可したウーリ、シュヴィーツ、ニトヴァルデンに割譲されなければならなかった。

Belluno ベルノ (都市国家)

ピアヴェ河畔の古代ベルノに、ランゴバルト公の所在地は従属していた。のちにこれはベルノ司教の伯領ベルノの中心となった。12紀ないし13世紀にベルノは司教支配から解放

され、そしてロンバルディア都市同盟に加盟した。それは1404年にヴェネツィア、1797年にオーストリア、1805年にフランス領イタリア王国、1815年にオーストリア領ロンバルディア-ヴェネツィア王国、そして1866年にイタリアにわたった。

Bemmelberg ベメルベルク (帝国騎士)

ベメルベルク家はシュヴァーベン騎士クライスに属していた (1569年から1661年にホーエンブルク所有のためにコヒャー・カントンに)。

Benediktbeuern ベネディクトボイエレン (帝国修道院)

コヒェルゼー湖の北東に位置するベネディクトボイエレンは、フオジ家出自のカール・マルテルのアギロフイング家の血縁者4人によって739年に設立されたと思われる。その修道院は、カール大帝からとくに庇護された。11世紀中頃以降、フライジングとアウクスブルクの両高司教区本部は、954年に破壊され1031年ないし1032年に再建されたベネディクト会修道院を、自分のために獲得しようと試みた。1133年に皇帝はその修道院に自由を保証した。それにより、諸代官はアンデックスの諸伯であり、1248年以降はバイエルンの諸公であった。1275年、その修道院は帝国直属の特許状 (特権) をもらった。皇帝ルートヴィヒ4世 (バイエルン公) の治下、それは帝国直属地の諸侯身分を失った。1422年以降、もはや帝国登録簿に記載されなくなった。1803年、それはバイエルンで世俗化された。

Benekendorf ベネケンドルフ Beneckendorff ベネッケンドルッフ Benkendorf ベンケンドルフ (騎士)

ベネケンドルフ家はフォークトランツの騎士位に属していた。

Bengel ベンゲル (帝国村)

モーゼル河畔のクレーヴ近郊のベンゲルは1274年ルードルフ・フォン・ハーブスブルクからシュボンハイムの諸伯に担保として与えられた。1374年11月11日にカール4世はトリニア大司教に担保を請け出すことを許可したが、それは実現されなかった。参照 Preußen プロイセン、Nordrhein-Pfalz ノルトライン-プファルツ。

Benkendorf ベンケンドルフ (帝国騎士)

参照 Benekendorf ベネケンドルフ、Beneckendorff ベネッケンドルッフ

Bentheim ベントハイム (伯領)

1126年と1137年のあいだに、ロータル・フォン・ジュップリンゲンブルクは、1050年頃初めて言及されているベントハイム村付近の、ミュンスターの北西部に位置するフェヒテ河畔の、早くもローマ人に軍事使用された岩山に立つ城塞ベントハイムを、義兄であるザルム-ラインエック (リーンエック) 伯オットーに委譲した。オットーの寡婦ゲルトルート・フォン・ノルトハイムは1154年にベントハイム伯女として裏付けされている。この一門が

死に絶えた後、伯領ベントハイム(上級伯領)は、1154年ないし1165年に、女子相続人ゾフィ・フォン・ラインエックの相続の過程で、ベントハイムの諸伯と名乗っていたオランダの諸伯の分家にわたった。1178年ないし1196年にユトレヒトのレーン主権は廃止された。12世紀末、それらの諸伯は1131年にはまだユトレヒトに属していたツヴェンテの一部であったウエルゼンとヒルテンの周辺地域(下級伯領ベントハイム)を獲得した。最も重要な土地は、ベントハイム、シュットオルフ、ノイエハウス、ノルトホルンの周辺にあった。1300年頃まで、その諸伯は、上級伯領と下級伯領にいたほぼ全員の貴族の一族に、自分たちに従属するよう強いた。1421年、その諸伯の男系は絶えた。新しい系は、結婚を通して1421年に隣接する領地(1495年以降帝国伯領)シュタインフルトを獲得した、クレーヴェのギュテルヴィーク(1454年没)一門出自の、ベントハイム最後の伯エーヴァーヴィン・フォン・ゲッターズヴィックの妹の孫がもとなっている。両領地は1454年に再び分割された。1486年、それらの諸伯はミュンスターの請求権を拒否するために、かれらの伯領を皇帝に委託し、そしてそれをレーンとして返してもらった。エーヴァーヴィン3世(1562年没)の結婚によって伯領テクレンブルクと領地レーダが、アルノルト2世(1606年没)の結婚によってノイエアールの伯領ホーエンリンブルク(リンブルク)とライン地方の領地アルペングがベントハイムにきた。1606年にベントハイムはベントハイム-テクレンブルク、(テクレンブルク、レーダ、リンブルク[ホーエンリンブルク])、ベントハイム、そしてシュタインフルト(ベントハイム-シュタインフルト)の三系に分化した。さらに分化し、合計5つの系に分化した。1622年に創設された本家ベントハイム-テクレンブルク-レーダは、1699年にテクレンブルクの3分の2とレーダの半分を長期にわたる係争後にゾルムスに失った。1707年、ゾルムスはこれらをプロイセンに売却した。1707年ないし1729年にベントハイム-テクレンブルクの諸侯はプロイセンに有利になるようにテクレンブルクを放棄したが、レーダ領地(部分的に)とリンブルク(ホーエンリンブルク)は保持した。同様に、1622年に創設されたベントハイム-シュタインフルト系は、ベントハイム-シュタインフルト系とベントハイム-ベントハイム系に分化した。ヴェストファーレン帝国諸伯合議体に属していたベントハイム-ベントハイムは、1752年ないし1753年に負債のために自領をハノーファーに担保として与え、1803年に絶えた。1804年にベントハイムはシュタインフルト、1806年にフランスの手にわたった。1806年にベントハイムの全部分が合計17平方マイルの面積と住民2万8,000人をともなってベルク大公領に、1810年12月10日にフランスにわたった。1815年にレーダとリンブルク(ホーエンリンブルク)は(1806年に皇帝直属の地位を失った)領地としてプロイセン、ベントハイムはハノーファー、シュタインフルトはプロイセンにわたった。1817年にベントハイム-テクレンブルク系とベントハイム-シュタインフルト(ベントハイム・ウント・シュタインフルト)系は、プロイセン諸侯位に上昇した。ベントハイムは1946年にニーダザクセン州にわたった。

Bentheim - Bentheim ベントハイム - ベントハイム (諸伯)

ベントハイム-シュタインフルト系の分割によって誕生し、ウェストファーレン帝国諸伯合議体に属し、1752年ないし1753年に自分の土地を負債のためにハノーファーに担保と

して与えたベントハイム－ベントハイム系は、1803年に絶えた。参照 Bentheim ベントハイム。

Bentheim – Steinfurt ベントハイム－シュタインフルト（諸伯）

1622年に伯領ベントハイムの分割によりベントハイム－シュタインフルト系は生まれた。その系はさらにベントハイム－ベントハイムとベントハイム－シュタインフルトに分かれた。ベントハイム－シュタインフルトは1804年に、1753年に担保という形でハノーファーにわたり1803年に絶えたベントハイム－ベントハイム系の土地を獲得したが、その後それはベルク大公領にいきついた。参照 Steinfurt シュタインフルト。

Bentheim – Tecklenburg ベントハイム－テクレンブルク（諸侯）

ベントハイム－テクレンブルクは1606年ないし1609年に伯領ベントハイムの分割によって生まれた。それは1699年ないし1707年ないし1729年に、テクレンブルクの3分の2とレーダの半分を、ゾルムス－ブラウンフェルス（1707年売却）に関する長期にわたる係争の後にプロイセンにとられたが、領地レーダの半分（部分的）とリンブルク（ホーエンリンブルク）は保持した。1806年にそれらの土地は大公領ベルク、1810年にフランス、1815年にプロイセンにわたった。

Bentheim – Tecklenburg – Rheda ベントハイム－テクレンブルク－レーダ（諸侯）

参照 Bentheim-Tecklenburg ベントハイム－テクレンブルク

Bentinck ベンティンク（騎士、男爵、諸伯、諸侯）

豊富な土地を所有していた富豪ベンティンクの騎士一門は14世紀初頭（1304年）以降、その存在が証明されている。その一門は1550年に男爵に上昇し、17世紀にヴィルヘルム・フォン・オラーニエンから、伯称号を与えられ、優遇された。ヴィルヘルム・フォン・ベンティンクが1733年にゾフィー・フォン・アルデンプルクとの結婚により手に入れたファーレル、クニップハウゼン等の領地に基づいて、帝国等族位の独立領主ベンティンクが生まれた。1808年にオルデンプルクの領地は世俗化され、1810年から1813年までオルデンプルクとともにフランスに編入された。1815年の住民2800人のクニップハウゼンからの独立は、元の状態に戻っただけでのことである。1825年にベンティンク家は契約によりオルデンプルク主権下でクニップハウゼンに対する統治権を、1830年にファーレルに対する統治権を獲得した。最後の帝国伯の死後（1835年）長期にわたる相続係争が生じた。その係争の終り1854年に、大公領オルデンプルクはクニップハウゼンとファーレルを約200万ターラーで、非嫡出子である息子たちと被相続人であるイギリス人の従兄弟たちから買い取った。

Bentzel zu Sternau ベントツェル・ツー・シュテルナウ（男爵、帝国騎士、帝国諸伯）

30年戦争後にマインツ大司教に雇用され、表向きはスウェーデン人カトリック教徒の、ベントツェルル・ツー・シュテルナウ貴族一門は、1732年に騎士位の貴族と認知され、

1746年にシュテルナウという別名でもって帝国男爵に上昇した。1743年以降、ライン帝国騎士のミッテルラインシュトローム・カントンに併合されていた。また1790年に帝国伯位を獲得した。1793年にベントツェル・ツー・シュテルナウ伯ヨハン・バプティストはシュヴァーベン騎士クライスの構成員に、1797年に彼の従兄弟ベントツェル・ツー・シュテルナウ伯クリスティアン・ヨゼフはシュヴァーベン騎士クライスのネッカー・カントンの構成員になった。なお2人は1805年にペルゾナリストとしてカントンの構成員となった。

Benzenau? ベンツェナウ? (帝国騎士)

レーン-ヴェラ・カントン、帝国騎士クライス。

Berchtesgarden ベルヒテスガーデン (領主司教座教会首席司祭管区)

1102年から1105年にイルムガルト・フォン・ズルツバッハとベーレンガール・フォン・ズルツバッハが、修道院ベルヒテスガーデンを創設した。それは1120年に修復され、1142年以降に教皇の私有修道院(アイゲンクロスター)となった。フリードリヒ1世バルバロッサはその修道院に1156年に森林利用権と、^{フォルストフライハイ}塩と金属を試掘する^{シュルツフライハイ}試掘権を授与した(それに伴って領邦君主権もしくは帝国直属地位を得た)。ハインリヒ6世はその修道院に1194年に^{ベルクレガール}鉱山支配権、^{ベルク}ルードルフ・フォン・ハーブスブルクは1290年に帝国直属地位、アドルフ・フォン・ナッサウは1294年に流血裁判権を与えた。1380年にその司教座教会首席司祭はベントツェル王からベルヒテスガーデンを帝国レーンとして手に入れたが、ベルヒテスガーデンは高額負債のために1393年から1404年ないし1407年までザルツブルク大高司教区本部に併合された。1558年ないし1559年以降、その司教座教会首席司祭は帝国諸侯合議体において議席と投票権をもつ帝国侯であった。1594年から1723年までヴィッテルスバッハ家はベルヒテスガーデンの領主司教座教会首席司祭であった。1803年、ベルヒテスガーデンは総面積14平方マイルで住民1万8,000人とともに世俗化され、トスカーナ大公フェルディナントにわたった。ベルヒテスガーデンには、ベルヒテスガーデン修道院と市場を除いて、市場開催権をもつ村^{ゲノツェンシャフト}シェレンベルク、教区ラムザウ、8組合(=ゲノツェンシャフト)つまりシェーナウ、ラムザウ、ビショフスヴィーゼン(ビショフヴィース)、ゲルン、シェッフアウ、アウ、ザルツベルク(ベルク)、エッテンベルク(オッテンベルク)、そしてオーストリア・バイエルン・ザルツブルク内にある間接的に重要な諸領地が所属していた。1805年にはベルヒテスガーデンは^{エスターライヒ}オーストリア、そして1809年ないし1810年ないし1811年にバイエルンにわたった。

Berckheim ベルクハイム

参照 Bergheim ベルクハイム

Berg ベルク (諸伯、諸公、伯領、公領、大公領)

11世紀後半にライン下流域に一族伝統の名前がアドルフ、エーバーハルト、エンゲルベルトという、一門が出現した。その一門は、出身地であるデューン河畔の(アルテンベル

ク、1152年以前にシトー会修道会大修道院として創設された) ベルクの名に因んでそう名乗り、1150年頃ジークとリップペとの間にたくさんの土地 (完全自由地、ヴェルデン修道院、ドイツ修道院、ジークブルク修道院に対する代官の所在地) を所有し、ケルン大高司教区本部と密接な関係にあった。その一門は、1100年頃にヴェルル諸伯の遺産から土地を相続し、1101年以降に伯の称号をもった。1133年から1288年まで主要居所はベルク (= ヴッパー河畔のブルク) であった。ベルクは16世紀初頭まで居館都市のままだった。1160年ないし1161年ないし1163年に、ベルクの諸伯はライン (ベルク) 系とヴェストファーレン系 (ベルク-アルテナ [-マルク]、アルテナ) に分化した。後者は、12世紀末にマルク系とイーゼンベルク系に分化し、イーゼンベルク系は急速に重要でなくなった。それに比べて、マルクの諸伯はたいへん勢力をもった。1176年にヒルデンとハーンの周辺の土地、またおそらくドゥイースブルクの周辺土地も、そして1189年にはデュッセルドルフ周辺の土地を手に入れ、また何回もケルン大司教座を占めたベルクの諸伯は、1225年に本家 (ライン系) が死に絶えた。かれらは、イルムガルト・フォン・ベルクを経由して、リンブルク家に相続されたので、リンブルク一門は、ドゥイースブルク周辺の土地、メットマン周辺の土地、そしてレマーゲン周辺の土地を手に入れた (筆頭地は1280年以降デュッセルドルフ)。これらは1348年に妹の娘マルガレーテ・フォン・ベルクとラーフェンスベルクを経由して、他国の領地内にある自国の最後の飛び領地 (1355年にハルデンベルク、1359年にゾーリンゲン) を処分した、ユーリヒの一門に相続された。1380年以降にベルクは公領となった。その公領に、父親から相続したマルガレーテ・フォン・ベルクの伯領ラーフェンスベルクが併合された。1423年にベルクは相続によって公領ユーリヒと合併した。1427年にはエルバーフェルトが獲得された。1511年にユーリヒ (ユーリヒヘンゲバッハ) 一門は死に絶え、そして、1368年以降にクレヴェーにおいて君臨していた (ユーリヒの諸公) フォン・デア・マルクの諸伯に、相続された (ユーリヒベルク-ラーフェンベルクの公領クレヴェーマルクとの合併)。1609年に、昔からのベルク伯一門のマルク分家 (クレヴェーマルク) は消滅した。ユーリヒクレヴェーの相続係争の後、1614年 (最終的には1666年) にカトリックに留まっていたベルク (デュッセルドルフ、レネップ、ヴィッパーフルス、ラーティンゲン、ラデヴォアムヴァルト [ラーデ・フォア・デム・ヴァルト]、ゾーリンゲン、ゲレスハイム、ブランケンベルク、エルバーフェルスなどの都市、デュッセルドルフ、アンガームントとランツベルク、メッツマン、エルバーフェルト、バルメン、パイエンブルク、ゾーリンゲンとブルク、シェラー、ヒルデンとハーン、ボルネフェルトとヒュックスヴァーゲン、モンハイム、マイゼロー [マイゼロー]、ポルツとミュルハイム [ミュルハイム]、オーデンタール [オーデンダール]、シャイダーヘーヘ [シャイデンヘー]、リュルスドルフ [リュストオルフ]、シュタインバッハ、レーベンベルク [ロイエンベルク] などの市行政管轄区、ハルデンベルク、プロイヒ [ブルック] などの自由領地、そしてシェラー領地を含む) は、ユーリヒとともにプファルツ-ノイブルクにわたり、1685年にはクーアプファルツ (それでもってベルクは準ラント [ネーベンラント] になったが)、そして1777年にプファルツとともにバイエルンにわたった。1805年から1806年にナポレオン1世に割譲されたベルクは、ナポレオンの義兄弟ヨハヒム・ムラート治下、ナッサウとプロイセンの地域とともに

大公領（ミュンスター公領、マルク伯領、テクレンブルク、ロンゲン、帝国修道院領エッセン、エルテンとヴェルデン、合計315平方マイル、住民87万8,000人）となった。これはライン、ジーク、ルール、エムスという4つの県に分割され、ナポレオンのフランスを手本にして憲法と行政機関をもった。ナポレオン法典も発効された。1809年にベルクは実際フランスの一部となった。1810年12月10日にミュンスター、ベントハイム、テクレンブルク、レーダ、合計87平方マイルがフランスに割譲されなければならなかった。1813年から1814年にフランスの施設は廃止された。1815年にベルクはプロイセン（ライン行政区域）にわたり、1946年にその地域はノルトライン-ヴェストファーレン州になった。

Berg ベルク（領地）

エーヒンゲン近郊のドナウ河畔のベルクの名称に因んで、ベルク諸伯はそう名乗った。かれらはシュタウフェン家と親族関係にあり、12世紀に3人の娘はそれぞれベーメン、メーレン、ポーランドの諸公と結婚した。伯であるハインリヒ3世は1212年にブルガウをレーンとして手に入れ、さらに結婚して（ロンスベルク）辺境伯称号を手に入れた。この系は1301年に死に絶えた。1346年に死に絶えたワルトシュタインの諸伯の本家から、オーストリアは1343年に領地ベルクを手に入れた。オーストリアの領邦君主権（領邦君主の統治権）下、ラント代官所在地シュヴァーベンの（シェンク）フォン・カステルの諸伯が領地ベルクを管理していた。参照 Baden-Württemberg バーデン-ヴェルテンベルク。

Berg ベルク

参照 Schrimpf von B. シュリンプフ・フォン・ベルク
Schrimppf von B. シュリンプッフ・フォン・ベルク

Berg? ベルク?（帝国騎士）

フランケン騎士クライスのレーン-ヴェラ・カントン

Berga ベルガ（帝国騎士）

ベルガ家は18世紀にツヴェルンベルク（ツヴェーレンベルク）とともにフランケン騎士クライスのアルトミュール・カントンに属していた。

Bergamo ベルガモ（都市国家）

古代のベルゴムムは後世にランゴバルド公領とフランク伯領の中心であった。12世紀に（1108年にコンズルン）都市ベルガモは司教支配から解放され、ロンバルディア都市同盟に加入した。1333年にベルガモはミラノ、1428年にヴェネツィア、1805年にフランス領イタリア王国、1814年ないし1815年にオーストリア領ロンバルディア-ヴェネツィア王国、そして1866年にイタリアにわたった。

Berge ベルゲ (帝国修道院)

マクデブルクのドームブルク (司教座教会城塞) の南部に位置するその修道院は966年に創設され、王により整備された。しかしはやくも1005年より以前に、それはマクデブルク大司教区本部に移された。

Bergen ベルゲン Bergen-op-Zoom ベルゲン・オブ・ツォーム (辺境伯領)

アントワープの北部に、14世紀にブラバント公領の端に小さな辺境伯領ベルゲンはできた。

Bergen ベルゲン

参照 Pergon ペルゴン

Bergen ベルゲン

参照 Schelm von B. シェルム・フォン・ベルゲン

Berger ベルガー (帝国騎士)

1721年から1772年まで、ベルガー家の人たちはシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンに属していた。

Bergheim ベルクハイム (領地)

ユーリヒ伯ヴィルヘルム3世の死亡時 (1219年)、彼の第2子ヴァルラームは宮中伯のレーンと私有自由地から構成されている領地ベルクハイムを手に入れた。1233年よりあとに、かれはフランケン地方の1028年に初めて言及されているエルフト河畔のベルクハイム村 (昔の王領?) 周辺に城塞ベルクハイムを建設し、その領地を、1246年に滅亡したアーレー・ホッホシュターデンの諸伯の遺産の相当数分だけ拡張した。しかし、その系が死に絶えた後、その領地は1312年頃に再び本家に戻った。

Berghes ベルゲス Grimbergen グリムベルゲン (侯領)

侯領ベルゲスはブラバントとブルグントを經由して、ブルグント騎士クライスに属していた。

Bergheinfeld ベルクラインフェルト (共同相続領)

もともと王、フルダ修道院、次にシュヴァインフルト辺境諸伯とかれらの相続人であるアイヒシュテット司教エーバーハルト (1098—1112年) が、シュヴァインフルト近郊のベルクラインフェルトに土地を所有していた。その後、16世紀初めにベルクラインフェルトはシャウムベルク (シャウムブルク)、テュービンゲン、そしてグルムバッハの諸君主の騎士の共同相続領として登場した。1631年にベルクラインフェルトのレーンは、1664年にユーリウス救貧院に対する自らの諸権利をヴェルツブルクに売却する高司教区本部アイヒ

シュテットの手にわたった。アイヒシュテット高司教区本部は、そこでヴェルツブルク高司教区本部と司教座教会参事会の土地を新たに獲得した。参照 Bayern バイエرن。

Bergzabern ベルクツァーベルン (領地)

エルレンバッハ溪谷とランダウ-ヴァイセンブルク街道の交差点に、古代ローマのタベルナエ・モンタナエがあった。1180年に初めて言及されているベルクツァーベルンは、12世紀にツヴァイブリュッケン諸伯の（堀をめぐらし水で囲まれた）水城の周辺に創設されたのは確かである。1286年にその村落は都市になった。1385年ないし1393年にベルクツァーベルンはそれらの諸伯からプファルツにわたり、ベルクツァーベルンの分割時、1410年に侯領プファルツ-ジンメルンにわたった。18世紀末それはフランス、1815年にプファルツあるいはバイエルン、1946年にはラインラント-プファルツ州にわたった。

Berthilipara ベリティリンパラ (バールの1地区)

Bering ベーリング (帝国騎士)

16世紀後半にベーリング家は、フランケン騎士クライスのゲビルク・カントンとフォークトランツの騎士領（フォークトランツ）に属していた。

Berka ベルカ (諸伯、領地)

1119年に教会のある村として、1414年には都市として言及されている、イルム河畔のベルカの名称に因んで、12世紀（1154年）にベルカの諸伯はそう名乗った。しかし1237年直前にかれらは死に絶えた。1300年頃にベルカは相続により、ブランケンハインの諸君主（1415年まで）にそれをレーンとして授与する、オラルミュンデの諸伯にわたった。後に、ベルカはヴェッティン一門の支配下にあった。1605年ないし1608年以降にそれは購入によりザクセン-ヴァイマル、1920年以降はテューリンゲンに所属した。

Berkheim ベルクハイム Berckheim ベルックハイム (男爵、帝国騎士)

1680年には在住し、自らの所有地とともに騎士に登録されていたベルクハイムの男爵たちは、1773年にイエープスハイムの半分とともにウンターエルザスの騎士クライスに属していた。アルマンスヴァイアーの6分の1、ヴィッテンヴァイアーの12分の7とともに、かれらはシュヴァーベン騎士クライスのネッカー・カントンのオルテナウ地区（カントン）の構成員であった（1802年にクリスティアン・ルートヴィヒ・ベルクハイム、カール・クリスティアン・ベルクハイム）。

Berkley ベルクライ (帝国侯)

1801年にエリーザベト・ベルクライ、つまりツァー・ブランデンブルク-アンスバッハ・ウント・バイロイト辺境伯アレクサンダーの妻は、帝国侯女に上昇した。

Berleburg ベルレブルク (城塞領、領地)

1258年、その修道院グラーフシャフトは、新しく建設されたキヴィタス・ベルレブルクを、アドルフ・フォン・グラーフシャフトとジークフリート・フォン・ヴィットゲンシュタインに売却した。1322年、フォン・ヴィットゲンシュタイン家は唯一の領地ベルレブルクを獲得した。1439年、ヴィットゲンシュタインはヘッセンの人的レーン (マンレーン) となった。宗教改革導入後、ヴィットゲンシュタインは、ザイン-ヴィットゲンシュタイン-ヴィットゲンシュタイン (ラースフェを含む) とザイン-ヴィットゲンシュタイン-ベルレブルクに分化した。1792年にヴィットゲンシュタイン家は帝国諸侯位を剥奪され、1806年にはヘッセン-ダルムシュタットの地方領主に隷属させられた。1806年にその地域はプロイセンのヴェストファーレン、1946年にノルトライン-ヴェストファーレンに付け加わった。

Berlepsch ベルレプシュ (帝国騎士)

一族由来の城塞パールリッセンから追放されたベルレプシュ家は、1369年にヴェラ川の北部に城塞ベルレプシュを建設し、それをヘッセン方伯にレーンとして提供した。ちなみに、かれらはヘッセン方伯の遺産管轄官になった。1399年にその城塞はヘッセンにわたったが、1461年に城塞ゼンゼンシュタインと交換にベルレプシュ家にもどってきた。1760年頃、その一族はフランケン騎士クライスのレーン-ヴェラ・カントンに属していた。

Berlichingen ベルリッヒンゲン (諸君主、男爵、帝国騎士)

1212年に初めて確実に証明できるベルリッヒンゲンの君主たちに、そして1176年に建設された修道院シェンタールに、半村^{オルト}ベルリッヒンゲンは所属していた。そこに800年頃ロルシュ修道院は土地を所有していた。ベルリッヒンゲン家は数多くの系に分化し (その中にベルリッヒンゲン-ロスザッハ) 特にヴェルツブルク司教の封建家臣であった。その家系で一番名のある人物は、強腕の騎士ゲッツ・フォン・ベルリッヒンゲン (1480年-1562年) である。帝国終焉までベルリッヒンゲン家は、パウメルレンバッハの12分の5、ベルリッヒンゲンの半分 (ドイツ騎士団が残り2分の1)、ヘンクストフェルトの一部、ヘッティンゲンボイレ (ヘッティングボイレ) の一部、オルンハウゼンを含むヤクストハウゼンの一部、ロスザッハの一部、そしてウンターケスザッハの一部、ハーゲンバッハを含むコルプ、ヒュングハイムを含むメルヒンゲン、メーグリッヒンゲン、ノインシュテッテン、ディーバッハ (ディースバッハ) とギェルトホーフ・イレスハイム、ヴァルカースホーフエンの一部とビーリッヒンゲンの2分の1をともなって、フランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに所属していた。1569年から1617年までフィルスエックとともに、1617年手に入れたレヒェンバルクとともに、ベルリッヒンゲン家はシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンに所属していた。そしてその時点から、1700年前後にレーン-ヴェラ・カントン、同様にフランケン騎士クライスのバウナッハ・カントンの登録簿に登録していた。オーデンヴァルトにあった彼らの土地は1808年にバイエルン、ヘッティング

ンボイレン（ヘッティングボイレン）に、ノインシュテッテンとヒュングハイムはバーデンに、その結果、1951年ないし1952年にバーデン-ヴュルテンベルク州にわたった。

Berlichingen - Rossach ベルリッヒンゲン-ロスザッハ（帝国騎士）

18世紀にベルリッヒンゲン-ロスザッハ家はイレスハイム（1808年にバイエルンにわたるが）とともにフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。1815年以降、伯だったその系は1924年に消滅した。

Berlin ベルリン（都市、ラント）

ハーフェル川、シュプレー川、パンケ川から流れ込んだ、氷河時代につくられた氷河（の融水によってつくられた）渓谷に12世紀に城塞と植民地ケーベニック、シュパンダウ、ケルンが生まれた。そのうちケルンは1232年に都市法をもった。それと比べて1230年から1240年にブランデンブルクの辺境伯たちは、すでに早くに経済的に、その後政治的にブランデンブルク内で指導的地位を獲得した。1709年にベルリンとケルンまたその他の村落は、自分たちの意志に反して、辺境伯たちの居館都市ベルリンに統合された（1709年に住民5万6,600、1800年に17万2,000、1860年に54万8,000、1880年に131万5,000人）。居館都市ベルリンは1809年ないし1810年に大学をもち、1871年にドイツ帝国の首都となった。1920年には周辺の諸村や諸都市とともに「大ベルリン」に改造された。このベルリンが1945年4月占領地域に分割され、フランス、イギリス、ソ連、アメリカにより連合国軍司令部がつくられ、さしあたり、ソ連が1948年6月16日にそこから脱退するまで、共同で管理されていた。1948年9月にベルリンは事実上政治的に分割された。1949年ドイツ民主共和国が東ベルリンを自国の首都に宣言した。それが西側連合軍とドイツ連邦共和国から認知されることなくして、1950年の基本法発布後、西ベルリンは連邦共和国の1州（ラント）になった。しかし賛成多数であったにもかかわらず、それは正式には認知されなかった。統治権は西側3連合国によって行使された。それに応じて西ベルリンは個別の議会と、頂点に市長1人をもつ市となったが、連邦参議院へ派遣された市代表者には完全な投票権は与えられなかった。ドイツ連邦共和国の法は、議会の賛成により効力をもった。ドイツ連邦共和国とドイツ民主共和国とのあいだの、1990年8月31日の統一条約で、ベルリンはドイツ連邦共和国の首都と定められた。ドイツ民主共和国がドイツ連邦共和国に加入することにより、1990年10月3日ベルリン州（ラント）が生まれた。なお1991年1月11日、このベルリン州にこれまでの（西）ベルリン憲法が発効された。1991年6月20日に連邦議会は338議席のうち320票の賛成をもって、連邦議会と連邦政府の所在地を4年から8年以内にベルリン市に遷都することを決議した。1996年5月5日の住民投票で、ベルリンとブランデンブルクとの統合は否決された。

Berlin von Waldershub ベルリン・フォン・ヴァルダースフープ（帝国騎士）

17世紀初期にベルリン-ヴァルダースフープ家はフランケン騎士クライスのアルトミュール・カントンに登録していた。

Bern ベルン (カントン)

参照 Bern(Reichsstadt) ベルン (帝国都市)

Bern ベルン (帝国都市、カントン)

おそらくツェーリング家のヴェローナをまねた名称のベルンは、1160年ないし1191年にツェーリングン公ベルトルト5世によって、最初はブルグント王領、のちにドイツ王領に建設された。それらの諸公が死に絶えた後、1218年にベルンは帝国にもどり、そして1274年にルードルフ・フォン・ハーブスブルクから帝国直属（帝国都市）の認可を得た。14世紀に都市ベルンは周辺地域に土地を得た（1323年にトゥン、1324年にラウベン、1334年にハスリに対する帝国代官職、それ以外に保護協約により1265年ないし1323年にインターラーケン、1317年にズミスヴァルト、1329年にブーフゼー）。1353年に都市ベルンはインナー・スイス盟約団体と永久同盟を結んだ。ことに15世紀に、ベルンは購入と征服によって自領を広げ、オーバーラントからジュラ山脈山麓までのアルプス北部における最大の都市共和国に拡充した（1377年にアールベルク、1382年ないし1384年にブルクドルフとトゥン、1388年にニータウとビューレン、1400年にフルーティゲン、1406年にブルグント方伯領、1413年にビップ、1415年にアールガウ、1535年ないし1536年にサヴォアからヴァート [1564年にゲックスとトーノンを放棄]）。1528年、ベルンは宗教改革を導入した。ベルンの地域は最終的には1万3,000平方メートル、つまり今日のスイスの約3分の1を包括した。1798年にベルンはヴァートとアールガウとオーバーラントをヘルヴェチア共和国にとられたが、その首都となった。1814年ないし1815年にベルンはアールガウとヴァートの独立に対する保障として、バーゼル高司教区本部の広大な部分を手に入れた。1848年以降、都市ベルンはスイスの首都である。

Bernau ベルナウ (領地)

^{オーストリア} エスターライヒの領邦君主権下で1635年以降ロールの男爵たちは、ベルナウの貴族から1236年にゲーテンブルクの貴族に、そののちヘンマン・フォン・リナッハとヤコブ・フォン・ラーベルク、同じく^{オーストリア} エスターライヒにいきついた領地ベルナウを、ガンジンゲン、ガルテン、ビューレン・シュヴァーダーロツホトアールガウのライプシュタットを含めて所有していた。参照 Roll zu B. ロル・ツー・ベルナウ、Aargau アールガウ。

Bernburg ベルンブルク (城塞、領地)

12世紀に建設されたザール河畔のベルンブルクは、ザクセン公ベルンハルトの死亡時、1218年に、彼の息子アンハルトのハインリヒにわたった。1252年にアンハルト-ベルンブルク兄系(1468年まで)、1603年にアンハルト-ベルンブルク弟系(1863年まで)が生まれた。参照 Anhalt-Bernburg アンハルト-ベルンブルク、Sachsen-Anhalt ザクセン-アンハルト。

Berneck ベルネック

参照 Perneck ベルネック、Zott von B. ツォット・フォン・ベルネック

Bernegger ベルンエッガー (帝国騎士) Berneker ベルンエッカー

1730年頃から(ヴェステンベルクスグロイスによる購入)1768年以前まで(ホルツシューアー・フォン・アスパッハ・ウント・ハルラッハ家への売却)ベルンエッガー家は、フランケン騎士クライスのシュタイガーヴァルト・カントンに属していた。参照 Bayern バイエルン。

Bernerdin ベルネルディン (帝国騎士)

1645年から1782年までベルネルディン家はシュヴァーベン騎士クライスのネッカー・カントンに、1656年から1673年までと1743年から1773年までプリュウダーハウゼンないしアーデルマンスフェルデン所有のためにコヒャー・カントンに属していた。

Bernhausen ベルンハウゼン (男爵、帝国騎士)

18世紀にベルンハウゼンの男爵は、ヘルリンゲンを含むクリンゲンシュタイン全土とともにシュヴァーベン騎士クライスのドーナウ・カントンに属していた。1542年から1569年に、カッツェンシュタイン、ドゥンステルキンゲン、ビッテンフェルト、そしてプーヒェンバッハとともにコヒャー・カントンに属していた。

Bernheim ベルンハイム (帝国騎士)

16世紀初頭にベルンハイム家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。1650年頃まで、かれらはシュタインドルフ(シュタインドルフ)所有のためにシュタイガーヴァルト・カントンの登録簿に登録していた。それ以外に、かれらはアルトミュール・カントンに属していたと思われる。

Bernhold von Eschau ベルンホルト・フォン・エシャウ (帝国騎士)

17世紀にベルンホルト(ベルンホルト・フォン・エシャウ)家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンの構成員であった。18世紀にはベルンホルト・フォン・エシャウ家はライン騎士クライスに属していた。1680年には定住し、かれらの土地とともに騎士に登録していたベルンホルト・フォン・エシャウは、1773年にウンターエルザス騎士クライスに属していた。かれらは1775年に男系、1816年に女系が絶えた。

Bernlohe ベルンローエ (帝国騎士)

16世紀後半にベルンローエ家はフランケン騎士クライスのゲビルク・カントンとフォークトラントの騎士領(フォークトラント)にも属していた。

Bernstein ベルンシュタイン Pernstein ペルンシュタイン (領地)

ベルンシュタインは1491年に行政的にニーダーエスターライヒにいきつき、1647年にはハンガリーの管理下、そして1919年にはオーストリアにいきつた。

Bernstein ベルンシュタイン (帝国騎士)

1650年頃から1700年頃までベルンシュタイン家はフランケン騎士クライスのレーンヴェラ・カントンに属していた。

Beroldingen ベロルディングゲン (男爵、諸伯、帝国騎士)

18世紀にベロルディングゲンの男爵、1800年以降ベロルディングゲンの諸伯は、ベーレンベルク (ベレンベルク)、ギュンデルハルト、ヴィルトタール、ウムキルヒの一部とともに、シュヴァーベン騎士クライスのヘーガウ・カントンに属していた。1778年に結婚により獲得したホールンのため、かれらは1790年から1805年までコヒャー・カントンの登録簿に登録していた。かれらは騎士領グランエック、フリデック (フリーデック)、ニーダーエシャッハ獲得によって1692年以降ネッカー・カントンの構成員であった。ニーダーエシャッハは1737年に帝国都市ロットヴァイルに、グランエックとフリデック (フリーデック) はテッシン家に売却された。ベロルディングゲンは1806年にヴェルテンベルクにわたった。ヴェルテンベルクはそれを1810年にバーデンに譲渡した。参照 Baden-Württemberg バーデン-ヴェルテンベルク。

Berstett ベルシュテット (男爵、帝国騎士)

18世紀に、1680年には定住し、かれらの土地とともに騎士に登録されていたベルシュテットの男爵たちは、ベルシュテットの6分の5、ヒプスハイムの6分の1、そしてオルヴィスハイムとともに、騎士クライスのウンターエルザスに属していた。かれらはシュミーハイムの3分の1を所有のため、シュヴァーベン騎士クライスのネッカー・カントンのオルテナウ地区 (カントン) の構成員であった (1802年にヴィルヘルム・ルートヴィヒ・ベルシュテット、クリスティアン・ヤコブ・ベルシュテット)。かれらは1893年に男系側が絶え、1970年に女系側が絶えた。

Bertoldsbaar ベルトルドスバル

Bertram ベルトラム (帝国騎士)

およそ1650年頃から1720年頃までベルトラム家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。

Bertrand ベルトラント (帝国騎士)

1710年か11年以降、ベルトラント家はデュルナウ所有のためにシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンの構成員であった。しばらくして、かれらはペルゾナリストと

して騎士クライスに属していた。

Bertremoville ベルトレモヴィレ (帝国騎士)

18世紀初頭、ベルトレモヴィレ家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。